

私たちは自らにとって聞きやすいことや都合のよいことはとても聞きやすく、蜜のようなものです。あなたは都合の悪い言葉をどのように扱っていますか。クリスチャンは神様から見せられた現状を解決していくのが役割です。皆さんは問題を見た時、どう対処しているでしょうか。忠告と批判とは意味が違います。神様が物事をジャッジする人であって、私たちがそれを裁く人ではありません。人は絶えず自分の判断が変わるにも関わらず物事を判断しようとします。そして評論します。一部の現象やある側面だけを見て判断します。私たち人間は裁き合うためにそこにいるのではありません。あなたの人間関係の中でも小さな災害のようなものが絶えず起きています。本来ならこうあるべきだったというあなたの正義で物事を裁いているのです。私たちは言葉を発する前にこの手で何かをしないとイケないと語られています。「愚かな者は自分の道を正しいと思う。しかし知恵のある者は忠告を聞き入れる」

■ 聞き従うこと

聞き従うこととは、忠告と知恵の関係によって赦しの道を得るということです。あなたは、忠告が好きですか。ありがたい言葉ですか。それとも嫌いですか。日本人は忠告が嫌いです。なぜなら多くの人が忠告を批判だと思っているからです。ということは、多くの人が忠告ではなく批判しているのです。日本人は忠告が嫌いで忠告されると怒ります。賢い人はそれを聞いて黙っています。あなたは人々に何かを伝える時、忠告していますか。それとも批判していますか。またそれを聞く方は、これは聞くべきだと思ふ時、初めて聞く耳ができます。神様は私たち人間に、その人が正しく生きるためにパートナーを与えました。それが教会であり、あなたに隣人です。教会は100%忠告で生きれば、最高の場所になります。忠告と感謝だけだからです。

「知恵のある者は忠告を聞き入れる。愚かな者は自分の怒りをすぐ現わす。利口なものははずかしめを受けても黙っている。」私たちは今を生きているのではなく、将来に生きています。未来は見えないが将来はなるべくしてなるものです。なるべきしてなるものの為生きてるので、今を生きては将来がないのです。

「真実の申し立てをする人は正しいことを告げる。」忠告をするものはどうあるべきを伝えていきます。申し立ては、自分の立場のためではなく、相手の人のためにするものであって、それを自分のためにした時点で批判になってしまいます。自分はこうしてほしかったのにならなかつたと言ったらそれは批判です。忠告とは100%相手のためになされないと忠告ではありません。

「偽りの証人は人に欺き事を告げる。軽率に話して人を剣で刺すような者がいる。しかし知恵のある人は人を癒やす。」忠告する人はその人が癒やされるように語る知恵が必要です。だから知恵のある者は忠告を聞き入れるのです。今日のメッセージ自体が「忠告」なのです。私たちクリスチャンは問題が起きる前に神様に知恵をもらっているのでしょうか。感情的に物事を行動するとそれを失ってしまいます。

■ 忠告と知恵の関係

聞き従うことは、忠告と知恵の関係が絶えず関係しています。忠告とは、たとえそれが批判でも忠告として受け取る器が必要です。問題が起きた時にどうその言葉を処理するかが問題です。大事なことは、その言葉を聞いた時にもう一度自分が岩の上に建っているかということを見なければいけません。その言葉でぐらつくのなら、それは砂の上に建てており、やってもうまくいかなかったということなのです。クリスチャンは批判の忠告でも有効なものとして聞かなくてはならないし、自分は人に対して批判の忠告をしてはいけません。神様の目線になって相手に向き合ったことは、必ず相手に命のみ御言葉となって届いていきます。だから今日、神様の目線になりましょう。

■ 小林富太郎

ライオンの創業者小林富太郎は、会社が重大損害を被って全責任を負うことになり、自殺しようと思っていた時に「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思えるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせませぬ。」というみ言葉が与えられました。その後神様に祈り、歯磨き粉を開発することに成功しました。途中で失敗もありましたが神様からの「諦めるな」という声が聞こえ、彼は最後まで諦めず、多くの人の健康を取り戻しました。命令を守らないことは自分の道を蔑むことになると聖書では言われています。忠告を聞いて、訓戒を受け入れるなら知恵を得るのです。だから今日語られる忠告を聞いてください。

■ 忠告を思慮深く受け止める

「思慮深く」とは片方から突っつかれたらもう片方もあるのではないかと考えないといけないということです。右も左も突っつかれてどうしたらいいかわからない時は、神様に祈って聞き、ベストを尽くしましょう。なぜ祈るか、それは偏らないためです。右左どちらか道を選ぶ時、私たちが絶えずニュートラルでなくてはなりません。しかし価値観や経験や成功事例があると同じことをやろうとします。モーセも過去の経験で失敗しました。クラーク博士やシンドラーもそうでした。だから祈って最善の道を導かれていかななくてはなりません。従わないことは偶像礼拝の罪です。神様は必ずあなたのそばに忠告者を置いています。その人の忠告を聞き、それに対して思慮深く考えなければなりません。それはすべて解決のためにやるのです。

■ 神様からの忠告

忠告はあなたが豊かなものになるために精錬された金を私から買いなさいと言っています。それは神様に対する信頼で、それが増し加われば増し加わるほど知恵が豊かになるのです。信仰とはその人を絶対に信頼するので知識で物事を対処することがないからです。ですから知恵深くする必要があります。あなたは赦されています。それに自信をもってください。イエス様の十字架は中途半端な赦しではないのです。そして梁が入った見えない目で物事を判断しないでください。目が見えるように神様に目薬をもらってください。

■ 悲嘆の中から恵みをもたらす神

神様の目線は今から先までを見ています。目が見えるようになるための目薬とは何でしょうか。聖書の中に書かれている現実と将来を得た人が目薬です。ダビデは兄弟の中で一番虐げられていた末っ子でした。家族の中でバカにされていたダビデが羊の番を通してあのゴリアテを倒すことができたのです。神様の計画とはこういうものなんだという目薬をあなたが目に塗ってください。現状を同じようなストーリーが聖書に書かれています。解決があるのだから、目薬を塗れば右往左往する必要はないのです。あなたが訓練にあった時には、思慮深く聖書の中に出てくる人を見て、目薬を塗って信頼して赦されたことを信じて罰じやないとわかった上で神様の道を進まなければなりません。神様に従うと犠牲を払うことで苦しいが、完全に赦されるのです。悲嘆の中で神様は恵みをもたらします。だから苦しみにあつて絶望した時にそのままでないでください。神様は究極的回復をもたらします。5千曲以上の賛美を作ったファニークロスビーは、病気で失明しましたが、目が見えなくなったことで多くの目を見ることのできるようになり、世界一幸せだと言いました。あなたの目をつぶって神様があなたに見せるものを見てください。すると多くの人があなたに忠告を与えてくれているはず。その言葉が聞こえるようになると信じます。

(要約者: 浅野 恵子)

(2018年7月15日)